

川島町立図書館のあり方に関する 中間報告書

平成26年1月

川島町立図書館のあり方研究会

川島町立図書館のあり方研究会中間報告

川島町教育委員会教育長 富田三千彦 様

川島町立図書館のあり方研究会 会長 河島茂生

昭和61年9月、町立図書館が開館して既に26年が経過しました。この間、図書館は町民学習のための知識・教養の施設として発展してきました。

また、平成4年に町は「生涯学習推進のまち宣言」をし、その生涯学習の中核的施設として多くの町民に利用されてきました。しかし、今日、更なる生涯学習の高まりや、利用者ニーズの多様化、少子化による人口減少などにより、目指すべき図書館像に変化が生じてきていることは否めません。

今、町民の最も身近な学習施設としての図書館にとって、より利用しやすい施設づくりが求められています。また、情報化社会に対応するために、図書館機能の向上を図ることが重要となっています。一方、現在町では第4次行政改革大綱第3期行動計画が実施され、効率的な行財政の推進のための検討が進められています。

川島町立図書館では、将来の図書館のあるべき姿を見据えるため、「川島町立図書館のあり方研究会」を平成25年7月に設置し、現在までに4回の研究を行ってきました。

研究会では、これまでの会議における委員の発言・意見をもとに、次のとおり中間報告をいたします。

平成26年1月21日

川島町立図書館の現状と課題

1 図書館の現状

・生涯学習の推進

川島町では、平成4年に「生涯学習推進のまち」を宣言し、町民の学習意欲に応える仕組みづくりを進め、誰もが明るく心豊かな人生が送れるよう、学習機会の提供の場としての役割を担っています。

図書館の立地としては、文化・スポーツ施設が集中しているコミュニティセンター、平成の森公園、町民体育館、町民会館、総合グラウンドなどの各施設が同一敷地で一体化しています。更に図書館の北側に隣接して、役場庁舎の建設計画が具体化しており、今後、利用者の増加が期待されるとともに、図書館運営も大きく変わる必要性が生まれています。

・蔵書数、登録者数等の年度別推移

町立図書館は昭和61年9月に開館して以来26年が経過しています。建物は延べ床面積867㎡で、平成24年度末の蔵書数は一般書・児童書で11万3千冊、視聴覚資料2,600点、新聞7紙、雑誌64誌となっています。

平成24年度末の町内登録者数は10,450人で、人口に対する登録率は48.2%(人口21,964人)、開館日数は287日、貸出冊数は一般書・児童(団体貸出を含む)は111,538冊、視聴覚資料(CD等)が3,088点で合計114,626点となっています。また、町民一人当たり蔵書数は5.1冊、一日当たり貸出し点数は400.7冊、町民一人当たりの図書費は244.5円となっています。年間利用者数は29,515人で、1日あたり103人となっています。

・図書館蔵書等の年度別推移

蔵書数では、昭和61年開館以来、3万7千冊から始まり平成12年度までは増加し、以降は12万冊余りと横ばいに推移しています。

本の貸出数は、年度によって変化がありますが、平均して2万冊前後となっています。登録者数では多い年では1万3千人余りでしたが、近年は1万1千人余りです。これは、少子化の影響を受けて児童・生徒の登録者数が年々減少していることが原因と考えられます。

2 川島町立図書館の課題

- ・少子高齢化、人口減少社会、読書離れ、ICT化などの社会状況の中で、利用者ニーズが変化し町立図書館に求められる役割やそれに基づく求められるサービスが多様化している。
- ・求められる蔵書と貸し借りの利便性、様々な媒体を利用した情報提供が必要になっている。
- ・財政状況を考慮する中で、管理運営の検討、効率化、町民との協働の推進が求められている。

3 川島町立図書館への提言

課題を積極的に取り組むことにより、今後、次のような町立図書館に変革していくことが必要になることが考えられます。

「町民の創造力を生かした図書館の将来像」として次のことがあげられます。

次のページにイメージモデルを掲げました。

町民の創造力を生かした 図書館の将来像

図書館サービスの将来ビジョン

町民のニーズに対応した、
地域に根ざしたサービス

利用しやすい開館時間

児童サービスの充実

情報提供能力の向上

レファレンスサービスの進展

情報技術を活用したサービスの拡充

外部施設と連携した図書館

学校図書館等の関連施設との連携強化

町役場と一体となった空間の構築



図書館組織の強化

民間の管理ノウハウの活用

職員の資質の向上

地域住民との協働

図書館施設・設備の充実

情報社会に対応した施設

高齢者・障がい者及び子どもを考慮した施設

快適な読書環境 危機管理への配慮

ボランティアスペースの確保

町民のニーズに対応した、地域に根ざしたサービス

利用しやすい開館時間

- ・現在、月曜日と第三日曜日、祝日が休館日として運営されているが、月曜日だけの休館など、わかりやすい開館の設定を望む。

児童サービスの充実

- ・ブックスタート事業、本の読み聞かせ等をボランティア団体等と協働による事業を推進する。

情報提供能力の向上

レファレンスサービスの進展

- ・図書館の二階にレファレンスコーナーを設け職員も常設し、レファレンスサービス等の利用者支援を行う。

情報技術を活用したサービス

- ・蔵書検索だけでなく、資料の予約も可能とするウェブサイトの構築。
- ・ツイッター、ウェブログ等による利用者情報交換の場の設定。

外部施設と連携した図書館

学校図書館等の関連施設との連携強化

- ・小中学校図書担当者会議による情報交換の推進。

役場と一体となった空間の構築

- ・新庁舎と図書館との間に、たとえばオープンテラス方式の読書場所等の設置。

図書館組織の強化

民間管理ノウハウの活用

- ・図書館サービスの質を確保し、地域の活性化につなげる経営のために民間のノウハウ、組織力の活用を検討する。たとえば、町民参加によるNPO法人等の運営について研究していく必要がある。

職員の資質向上

- ・図書館の運営にあたる職員は、今後も、生涯学習の中核的機関としての図書館の意義を理解し、その制度・経営に関する見識を養う。また、個々の図書館職員は、利用者からの多様な要望に応えられるよう日ごろから研修等の参加を奨励され、能力、資質向上を図る。

地域住民との協働

- ・在宅高齢者、障がい者等を対象としたボランティアによる本の有償宅配サービスの実施を検討。
- ・視覚困難者、高齢者を対象とした、大活字本の充実とボランティアによる対面朗読サービスの実施。
- ・ボランティアグループや個人の協力を得て講座・事業を開催し、協働による運営を行う。
- ・新たなボランティアを育成することにより、ボランティア事業を支援するとともにネットワークづくりを推進。

図書館施設・設備の充実

情報社会に対応した施設

- ・図書の閲覧、読書、学習を支援するため個別閲覧機の増設と情報化に対応した設備の設置。
- ・調査用パソコンを設置して、利用者による資料検索等を可能にする。

高齢者・障害者及び子どもを考慮した施設

- ・図書館と隣接した町民のくつろぎスペース・カフェを設置し、近くの食事処等との連携。
- ・高齢者及び子どもがくつろげるスペースの設置。
- ・高齢者等が利用しやすいよう洋式トイレへの改造。

快適な読書環境

- ・視聴覚室の有効活用として、本棚の設置、おしゃべりコーナー、ソファ、ボランティアスペース等への変更の検討。
- ・将来的には読書スペースを十分考慮した増築を検討。

危機管理への配慮

- ・危機管理の面からも利用者が土足で入館できるよう検討。

ボランティアスペースの確保

- ・ボランティアが気軽に集える場所の設置。

施策の計画的な推進

以上、図書館のサービス等のあり方の提言を掲げましたが、生涯学習施設として役割を果たしつつ、今後も町民のニーズをとらえ町民サービスが向上できるよう、提案した内容を十分参考にいただき、計画的な推進をお願いするものです。

「川島町立図書館のありかた研究会」委員名簿

(敬称略・順不同)

No.	氏名	選出区分	団体・職業等	備考
1	河島茂生	学識経験者	聖学院大学図書館情報課程准教授	会長
2	関廣好	学識経験者	県立熊谷図書館主席司書主幹	
3	鈴木洋子	ボランティア	おはなしたまてばこ	
4	細野めぐみ	ボランティア	川島町朗読ボランティア	
5	飯野理栄	ボランティア	三保谷小学校朗読ボランティア	
6	田中君枝	ボランティア	川島町図書館ボランティア	
7	森谷彰	一般公募	一般公募	
8	岡部宣章	一般公募	一般公募	
9	本間康予	一般公募	一般公募	
10	吉澤佐知子	一般公募	一般公募	
11	関口昭彦	学校関係者	出丸小学校長	副会長
12	小林知子	学校関係者	川教研学校図書館教育部長	